

小学部 国語 「たくさん話そう」 ～「1日のふりかえり」を中心とした授業実践～

岩切 昌大（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 仁野平 智明（熊本大学大学院教育学研究科） 菊池 哲平（熊本大学大学院教育学研究科）

児童の実態

対象児童：小学部2年生 男子（B1 自閉症スペクトラム）

- ・平仮名の読み書き ◎
- ・話すことは好き
- ・大人が質問→「それは言わないで」「分からない」
- ・保護者の希望
- 「家庭で学校のことをもう少し話してほしい」
- 「言葉を覚えていけたら」

LCスケール結果（令和元年7月）
言語表出 LC年齢 3歳4ヶ月
言語理解 LC年齢 3歳3ヶ月
コミュニケーション LC年齢 2歳9ヶ月

方法

小学部 仮説

「言葉で表現する場面」に重点をおいた授業を実施することで
「言葉による認識力が向上」し、「日常生活が豊かなものになる」

保護者の
ニーズ

言語認知の
ギャップ

自信のなさ

話せなくて
困ってる

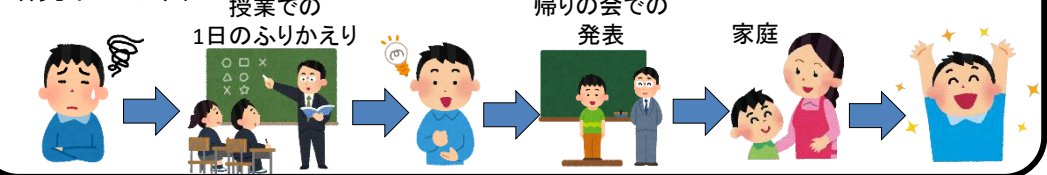
授業で本人の表現を
“見える化”
言葉の整理&増加

般化場面
帰りの会で評価
（話す量）

本実践 仮説

「『1日のふりかえり』を毎回取り入れた授業」を実施することで
「使用する言葉が増え」「学校生活・家庭生活での会話内容が広がる」

研究イメージ図



授業概要

グループ：2年生 男子2人

題材の目標

- 1)【知識及び技能】教師と一緒に振り返り内容の言葉を整理し、正しい言葉の使い方ができ、語彙を増やすことができる。
- 2)【思考力、判断力、表現力等】自分が知っている言葉を当てはめ、振り返りを詳しく伝えようと、表現することができる。
- 3)【学びに向かう力、人間性等】友達の話に興味を持ち、話題に関する簡単なコメントしようとする。

授業の流れ

- (1) 始めのあいさつ
- (2) 「1日のふりかえり」
- (3) 別題材（小学1年生教科書）
- (4) （ゲーム）
- (5) 終わりのあいさつ

★：授業の工夫 ★：学習のねらい・身に付けてほしい力

「1日のふりかえり」の流れ（15分）

- 1) 教師：ホワイトボードにプリント（A3）を掲示する。
教師：「今日はどんなことがあったかな？」

- 2) 児童：出来事を話す。
教師：内容を整理しながら記入する。

- ★児童の発言を繰り返す。
- ★「どこで？」「どう思った？」等の質問
- ★「そして」「次は」といった続きを促す言葉掛け



友達の振り返り

- 3) 児童：書いた内容を読む。
★単語のまとめりや助詞の使い方
★振り返る際の文の構成

- 4) 児童：友達の振り返り内容を読み、コメントする。

- ★コメントカードの用意
- ★友達の話への興味・関心
- ★相手に自分の話が伝わった実感



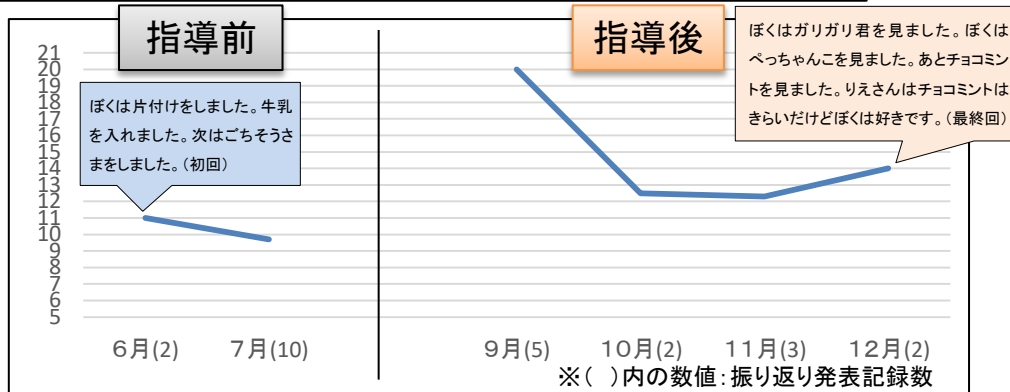
★コメントカード

- 5) 児童：プリント（A4）に振り返り内容を記入する。

- ★単語のまとめりや助詞の使い方
- ★振り返る際の文の構成

結果と考察

①振り返りの量的変化（帰りの会時 使用文節平均）



対象児の成長

成長の背景

- ◎全体として増加傾向。
- ◎9月に爆発的に伸びた。
- その後落ち着く。

- ・本人の“使える”言葉の増加。
- ・授業をきっかけに、伝えたいことが増えた。
- ・発表内容を精選できるようになった。

②振り返りの質的变化（帰りの会時 発表内容）

指導前

※？：動画内にて、聞き取れなかった部分

日付	帰りの会での発表
7/4	ぼくは、プールでおよごが楽しかったです。ぼくは三島君に水をかけて岩切先生にも水をかけました。りえさんにも水をかけ、山中先生にも水をかけて…
7/18	ぼくは、プールでおよごが楽しかったです。ぼくは、（動作で表現：伏し浮き）？？になって潜ったんだよ。あと、だるまも潜って（動作で表現：だるま浮き）今、？に来てお母さんが上手なって言って。

- ▲2か月間、楽しかった以外の感想なし。
- ▲振り返り内容に偏り。（7月：ほぼ水泳について）
- ▲文の途中で終わることがある。
- 言葉で上手く伝えられない時は、動作で表現。

指導後

日付	国語の授業での振り返り文章	帰りの会での発表
9/6	きょうはワニのおもちゃであそびました。いわきりせんせいがたべられました。ぼくはこわかったです。	ぼくは遊びです。マリオの？？をなおして、いま食べられました。いま全部。ワニが先生の？？を食べました。えいちゃんは怖かったです。
9/18	きょう、みしまくんがみずをいれて、フーしたら、ジャーとみずがでました。びっくりしました。	ぼくは遊びです。なんかいっぱい岩切先生のお尻には水風船をジャーってかけました。（略）風船がフーって小さくなって、次は水がジャーって出てきました。（教師：瑛太君はどんなきもちだったの？）えいちゃん、びっくりした。
10/30	きょうは、ぼくはずこうをしました。みしまくんがぼくのあたまにえのぐをつつけちゃいました。だけど、わるいきもちではありませんでした。	

対象児の成長

成長の背景

- ◎「こわかった」「びっくりした」等の感想あり。

- ◎様々な場面の振り返りをできるようにになった。
- ◎文末まで発表できるように。
- ◎動作での表現が少なくなり、擬態語・擬音語が出現

- ・感情を表現する言葉の整理・獲得
- ・言葉の認識力が上がり、言葉の使い分けができるようになった。
- ・表現しようとする思いの成長
- ・落ち着いて1日を振り返ることができる場面の設定
- ・文章や話の構成意識がついてきた。
- ・授業で学習したことの般化

保護者より（連絡帳）

仁野平准教授より

- ・芋ほりのことを授業の振り返りのように発表を披露してくれました!!
- ・（給食を一番に食べ終わらなくて）残念だったと教えてくれました。
- ・色々な事を真剣な出来事として伝えてくれます。

- ・文章の中に“見えない接続詞”があり、文脈を意識できるようになっている。
- ・多様な助詞を使えるようになってきたことから、単語の関係性を複雑に操作できるようになった。
- ・次は自分の力だけで同じような文章が書けるか確かめることが必要。

授業づくりのポイント

- ◎正解、不正解にとらわれず、児童のもっている言葉や表現を引き出し、整理するような支援・工夫。

- ◎学校生活の中で、学んだことを生かせる場面の設定

- ◎読んだり、書いたりしながら自分のことをメタ認知的に捉え、体験や経験と言葉を結びつける学習の繰り返し。